

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	臨床医学各論Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	佐々木一泰	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	2年に引き続き各臓器における疾患について、概説、疫学、成因と病態生理、症状、診断、治療予後などについて、詳しく教授する。			評価方法			
授業概要	教科書をベースに配布プリントを作成、配布し講義を進めていく。臨床上必要な知識については別途資料を配布し知識を深めるようにする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	神経疾患 その1						
第2週	神経疾患 その2						
第3週	神経疾患 その3						
第4週	神経疾患 その4						
第5週	神経疾患 その5						
第6週	神経疾患 その6						
第7週	神経疾患 その7						
第8週	神経疾患 その8						
第9週	神経疾患 その9						
第10週	神経疾患 その10						
第11週	リウマチ性疾患、膠原病 その1						
第12週	リウマチ性疾患、膠原病 その2						
第13週	リウマチ性疾患、膠原病 その3						
第14週	リウマチ性疾患、膠原病 その4						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	臨床医学各論Ⅱ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	佐々木一泰	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	内科以外の疾患について、概説、疫学、成因と病態生理、症状、診断、治療予後などについて、詳しく教授する。			評価方法			
授業概要	教科書をベースに配布プリントを作成、配布し講義を進めていく。临床上必要な知識については別途資料を配布し知識を深めるようにする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	小児科疾患 その1						
第2週	小児科疾患 その2						
第3週	一般外科 その1						
第4週	一般外科 その2						
第5週	一般外科 その3						
第6週	一般外科 その4						
第7週	麻酔科 その1						
第8週	麻酔科 その2						
第9週	婦人科疾患 その1						
第10週	婦人科疾患 その2						
第11週	婦人科疾患 その3						
第12週	婦人科疾患 その4						
第13週	皮膚疾患 その1						
第14週	皮膚疾患 その2						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	臨床医学各論Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担 当	佐々木一泰	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	教科書をベースに配布プリントを作成、配布し講義を進めていく。临床上必要な知識については別途資料を配布し知識を深めるようにする。			評価方法			
授業概要	内科以外の疾患について、概説、疫学、成因と病態生理、症状、診断、治療予後などについて、詳しく教授する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	皮膚疾患 その3						
第2週	眼科疾患 その1						
第3週	眼科疾患 その2						
第4週	耳鼻科疾患 その1						
第5週	耳鼻科疾患 その2						
第6週	耳鼻科疾患 その3						
第7週	精神科疾患 その1						
第8週	精神科疾患 その2						
第9週	心療内科						
第10週	第1章～第3章までのまとめ						
第11週	第4章～第6章までのまとめ						
第12週	第7章～第8章までのまとめ						
第13週	第9章～第11章までのまとめ						
第14週	第11章～第13章までのまとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう (西洋医学編)Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	佐々木一泰	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	東洋療法学校協会 編 東洋医学臨床論 第2章 治療各論 3. スポーツ医学における鍼灸療法をベースに臨床上遭遇する事が多いと考えられるスポーツ疾患に対する知識を習得する。また、疾患を鑑別するための徒手検査方法、疾患に対する鍼灸治療法について実習形式で学び診察から治療まで一連の流れを修得できるようにする。			評価方法			
授業概要	資料を配布し、座学にて知識を習得する。実技は学生グループを作り徒手検査から鍼灸治療の流れを確認する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学臨床論(はりきゅう編)	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布プリント、ステンレス鍼				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	上肢のスポーツ障害 座学①						
第2週	上肢のスポーツ障害 徒手検査・鍼灸治療(実技)①						
第3週	上肢のスポーツ障害 座学②						
第4週	上肢のスポーツ障害 徒手検査・鍼灸治療(実技)②						
第5週	上肢のスポーツ障害 座学③						
第6週	上肢のスポーツ障害 徒手検査・鍼灸治療(実技)③						
第7週	体幹部のスポーツ障害 座学						
第8週	体幹部のスポーツ障害 徒手検査・鍼灸治療(実技)						
第9週	下肢のスポーツ障害 座学①						
第10週	下肢のスポーツ障害 徒手検査・鍼灸治療(実技)①						
第11週	下肢のスポーツ障害 座学②						
第12週	下肢のスポーツ障害 徒手検査・鍼灸治療(実技)②						
第13週	下肢のスポーツ障害 座学③						
第14週	下肢のスポーツ障害 徒手検査・鍼灸治療(実技)③						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう （東洋医学編）Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	柊木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	演習により、各項目を順次理解し、鍼灸治療が行えるようにする。実際の臨床における能力向上のために、鍼灸治療体系の理解を深める。			評価方法			
授業概要	2年に引き続き、東洋医学概論の概念・解説を含みながら、主要症候の病因病機を理解し、鍼灸治療が行えるように、東洋医学領域の基礎知識の整理とともに、問題演習等を教授する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学臨床論(はりきゅう編)、 配布プリント	使用器材	液晶プロジェクター、PC				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	(主要症候に対する鍼灸療法) 16 月経異常まとめ						
第2週	17 排尿障害	(教科書P70～72)					
第3週	淋証(混濁尿)	(配布プリント参照)					
第4週	18 インポテンツ	(教科書P73～75)					
第5週	19 肩こり	(教科書P76～77)					
第6週	小テスト						
第7週	20 頸肩腕痛 ①	(教科書P79～81)					
第8週	20 頸肩腕痛 ②	(教科書P81～82)					
第9週	21 肩関節痛 22 上肢痛	(教科書P83～84、87)					
第10週	小テスト						
第11週	23 腰下肢痛 24 膝痛	(教科書P90～91、93)					
第12週	25 運動麻痺	(教科書P96～98)					
第13週	26 高血圧	(教科書P99～100)					
第14週	主要症候に対する鍼灸療法 まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう （東洋医学編）Ⅱ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	柊木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	演習により、各項目を順次理解し、鍼灸治療が行えるようにする。実際の臨床における能力向上のために、鍼灸治療体系の理解を深める。			評価方法			
授業概要	2年に引き続き、東洋医学概論の概念・解説を含みながら、主要症候の病因病機を理解し、鍼灸治療が行えるようになる為の東洋医学領域の基礎知識の整理、問題演習等を教授する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学臨床論(はりきゅう編)、 配布プリント	使用器材	液晶プロジェクター、PC				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	(主要症候に対する鍼灸療法) 17 ~ 27 まとめ (教科書P70~102)						
第2週	27 低血圧 (教科書P101~102)						
第3週	28 食欲不振 (教科書P104~105)						
第4週	29 肥満 (教科書P106~107)						
第5週	30 発熱 (教科書P109~111)						
第6週	小テスト						
第7週	31 のぼせと冷え (教科書P112~113)						
第8週	32 不眠 (教科書P115~116)						
第9週	33 疲労と倦怠 (教科書P117~119)						
第10週	小テスト						
第11週	34 発疹 (教科書P120~122)						
第12週	35 夜尿症 (教科書P123~124)						
第13週	(老年医学における鍼灸療法) 老年者の疾患と鍼灸療法 (教科書P144~152)						
第14週	主要症候に対する鍼灸療法 まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう （東洋医学編）Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	柊木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	演習により、各項目を順次理解し、鍼灸治療が行えるようにする。実際の臨床における能力向上のために、鍼灸治療体系の理解を深める。			評価方法			
授業概要	2年に引き続き、東洋医学概論の概念・解説を含みながら、主要症候の病因病機を理解し、鍼灸治療が行えるようになる為の東洋医学領域の基礎知識の整理、問題演習等を教授する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学臨床論(はりきゅう編)、 配布プリント	使用器材	液晶プロジェクター、PC				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題①						
第2週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題②						
第3週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題③						
第4週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題④						
第5週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑤						
第6週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑥						
第7週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑦						
第8週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑧						
第9週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑨						
第10週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑩						
第11週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑪						
第12週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑫						
第13週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題⑬						
第14週	主要症候における鍼灸療法に関する講義と問題まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	総合領域Ⅳ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	柊木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	実際の臨床における能力向上のために、必要な用語・概念を理解し、伝統鍼灸の基礎知識・診断学の修得の完成を目指す。			評価方法			
授業概要	東洋医学概論の概念・解説を含みながら、主要症候の病因病機を理解し、鍼灸治療が行えるようになる為の、東洋医学領域の基礎知識・診断学の整理、問題演習等を教授する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学概論、 東洋医学臨床論(はりきゅう編)、 配布プリント	使用器材	液晶プロジェクター、PC				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸基礎理論①						
第2週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸基礎理論②						
第3週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸基礎理論③						
第4週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸基礎理論④						
第5週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸基礎理論⑤						
第6週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸基礎理論⑥						
第7週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸基礎理論⑦						
第8週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸基礎理論⑧						
第9週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸基礎理論⑨						
第10週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸基礎理論⑩						
第11週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸基礎理論⑪						
第12週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸基礎理論⑫						
第13週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸基礎理論⑬						
第14週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸基礎理論まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						



令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	総合領域Ⅳ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	柊木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	実際の臨床における能力向上のために、必要な用語・概念を理解し、伝統鍼灸の基礎知識・診断学の修得の完成を目指す。			評価方法			
授業概要	東洋医学概論の概念・解説を含みながら、主要症候の病因病機を理解し、鍼灸治療が行えるようになる為の、東洋医学領域の基礎知識・診断学の整理、問題演習等を教授する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学概論、東洋医学臨床論(はりきゅう編)、配布プリント	使用器材	液晶プロジェクター、PC				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸診断学①						
第2週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸診断学②						
第3週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸診断学③						
第4週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸診断学④						
第5週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸診断学⑤						
第6週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸診断学⑥						
第7週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸診断学⑦						
第8週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸診断学⑧						
第9週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸診断学⑨						
第10週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸診断学⑩						
第11週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸診断学⑪						
第12週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸診断学⑫						
第13週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸診断学⑬						
第14週	基礎はり学・きゅう学における東洋医学概論に関する講義と問題 伝統鍼灸診断学まとめ						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	総合領域Ⅴ（あはき史含む）	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験		担当	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 あはき史の概要を学び、公衆衛生学・経絡経穴概論・はりきゅう理論等を復習し、知識の定着を図る。 2 高齢者に対する鍼灸治療など臨床現場で用いる知識と技術の習得を目指す。			評価方法  期末試験 100%  （100点換算で60点以上で合格）			
授業概要	1. 講義プリントを配布し、スライドを用い授業を行う。 2. 小テストを行い知識の定着を図る。						
教科書等	経絡経穴概論・講義プリント	使用器材	プロジェクター・白板				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	手部の経穴・要穴の復習 プリント配布						
第2週	小テスト・前回の復習および前腕部の筋肉、経穴部位の復習 配布プリント						
第3週	小テスト・前回の復習および前腕部の神経の復習 配布プリント						
第4週	小テスト・前回の復習および足部の経穴部位の復習 配布プリント						
第5週	小テスト・前回の復習および下腿部の筋肉、経穴部位の復習 配布プリント						
第6週	小テスト・前回の復習および下腿部の神経の復習 配布プリント						
第7週	小テスト・前回の復習および体幹部の筋肉、経穴部位の復習 配布プリント						
第8週	小テスト・前回の復習および体幹部の神経の復習 配布プリント						
第9週	小テスト・頭部顔面部の筋肉、神経、経穴部位の復習 配布プリント						
第10週	小テスト・前回の復習および上腕部の筋肉、経穴部位の復習 配布プリント						
第11週	小テスト・前回の復習および上腕部の神経の復習 配布プリント						
第12週	小テスト・前回の復習および大腿部の筋肉、経穴部位の復習 配布プリント						
第13週	小テスト・前回の復習および大腿部の神経の復習 配布プリント						
第14週	小テスト・流注および奇穴の復習 配布プリント						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	総合領域Ⅴ（あはき史含む）	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験		担当	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 あはき史の概要を学び、公衆衛生学・経絡経穴概論・はりきゅう理論等を復習し、知識の定着を図る。 2 高齢者に対する鍼灸治療など臨床現場で用いる知識と技術の習得を目指す。			評価方法  期末試験 100%  （100点換算で60点以上で合格）			
授業概要	1. 講義プリントを配布し、スライドを用いて授業を行う。						
教科書等	講義プリント・教科書	使用器材	プロジェクター・白板・ベッド・鍼灸治療道具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	あはき史の概要① 配布プリント						
第2週	あはき史の概要② 配布プリント						
第3週	高齢者の概要① 配布プリント						
第4週	高齢者の概要② 配布プリント						
第5週	高齢者に対する鍼灸治療 ① 配布プリント						
第6週	高齢者に対する鍼灸治療 ② 配布プリント						
第7週	高齢者に対する鍼灸治療 ③ 配布プリント						
第8週	高齢者に対する鍼灸治療 ④ 配布プリント						
第9週	高齢者に対する鍼灸治療 ⑤ 配布プリント						
第10週	衛生学・公衆衛生学 復習 ①						
第11週	衛生学・公衆衛生学 復習 ②						
第12週	はりきゅう理論 復習 ①						
第13週	はりきゅう理論 復習 ②						
第14週	はりきゅう理論 復習 ③						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1. 教科書のある科目については、講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2. 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	はり理論・きゅう理論	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	鍼灸に関する基礎的知識、リスクマネジメント、治効メカニズムについて学ぶ。			評価方法  期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	教科書、および教科書をベースにしたプリント、スライドを用い講義を行う。						
教科書等	はりきゅう理論	使用器材	プロジェクター・白板				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第1章 鍼灸施術の意義 第2章 鍼の基礎知識						
第2週	第3章 刺鍼の方式と術式						
第3週	第4章 特殊鍼法						
第4週	第5章 灸の基礎知識 第6章 灸術の種類						
第5週	第7章 鍼灸の臨床応用						
第6週	第8章 リスク管理						
第7週	第9章 1.痛み感覚の受容と伝導						
第8週	第9章 2.温度感覚の受容と伝達～4.筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝導						
第9週	第9章 5.鍼灸刺激と反射						
第10週	第9章 6.鍼鎮痛						
第11週	第9章 7.刺激と反応						
第12週	第10章 2.自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響						
第13週	第10章 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響 鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系の相互作用						
第14週	第11章 関連学説						
第15週	期末試験						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 2年	科目名	あはきの適応の判断	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担 当	佐々木一泰・太田和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	日常臨床において遭遇する可能性のある症状が、鍼灸で適応可能か判断するための知識を修得する。			評価方法			
授業概要	配布プリントを中心にスライド等を用いて講義を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学総論・配布プリント	使用器材	白板・プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	適応判断のための問診プロセス ①						
第2週	適応判断のための問診プロセス ②						
第3週	全身所見における適否の判断 ①						
第4週	全身所見における適否の判断 ②						
第5週	全身所見における適否の判断 ③						
第6週	頭部所見における適否の判断 ①						
第7週	頭部所見における適否の判断 ②						
第8週	胸部所見における適否の判断 ①						
第9週	胸部所見における適否の判断 ②						
第10週	腹部所見における適否の判断 ①						
第11週	腹部所見における適否の判断 ②						
第12週	運動器所見における適否の判断 ①						
第13週	運動器所見における適否の判断 ②						
第14週	その他の所見における適否の判断						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	総合領域 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	現在鍼灸院にて施術業務に従事中	担当	星野英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1・2年で学習した基礎医学（解剖学・生理学など）の総復習を行い鍼灸師として必要な知識を身につける。			評価方法  期末試験 100%  (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	過去に出題された国家試験の解剖・生理学などの項目を重点的に振り返り、鍼灸師として必要な知識を深める。						
教科書等	解剖学 生理学	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題①						
第2週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題②						
第3週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題③						
第4週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題④						
第5週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑤						
第6週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑥						
第7週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑦						
第8週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑧						
第9週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑨						
第10週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑩						
第11週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑪						
第12週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑫						
第13週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑬						
第14週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑭						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	総合領域 I	授業時期	中期	授業時数	30
実務経歴	現在鍼灸院にて施術業務に従事中	担 当	星野英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1・2年で学習した基礎医学（解剖学・生理学など）の総復習を行い鍼灸師として必要な知識を身につける。			評価方法			
授業概要	過去に出題された国家試験の解剖・生理学などの項目を重点的に振り返り、鍼灸師として必要な知識を深める。			期末試験 100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	解剖学 生理学	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑮						
第2週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑯						
第3週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑰						
第4週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑱						
第5週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑲						
第6週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題⑳						
第7週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題㉑						
第8週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題㉒						
第9週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題㉓						
第10週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題㉔						
第11週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題㉕						
第12週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題㉖						
第13週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題㉗						
第14週	基礎医学・臨床医学・鍼灸医学等に関する講義と問題㉘						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	リハビリテーション医学	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験	病院リハビリテーション科勤務歴5年	担当	中川 裕理	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	リハビリテーション医学における基本的知識を学び、各疾患におけるリハビリテーションを理解する。			評価方法			
授業概要	リハビリテーションの基本を実際の症例を通して理解する。 また、解剖・生理学的視点から障害を理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハビリテーション医学	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	リハビリテーションの概要、 リハビリテーション障害						
第2週	リハビリテーション医学と医療、 障害の評価						
第3週	医学的リハビリテーション						
第4週	脳卒中のリハビリテーション						
第5週	脊髄損傷のリハビリテーション ①						
第6週	脊髄損傷のリハビリテーション ②						
第7週	切断のリハビリテーション						
第8週	小児のリハビリテーション						
第9週	骨関節疾患のリハビリテーション ①						
第10週	骨関節疾患のリハビリテーション ②						
第11週	末梢神経障害のリハビリテーション						
第12週	パーキンソン病のリハビリテーション						
第13週	呼吸器疾患のリハビリテーション						
第14週	心疾患のリハビリテーション						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	リハビリテーションの対象は、一般の医学と大きく異なり、障害又は障害者である。また、多職種の連携が重要であるため、教科書だけでなく、日頃から新聞等で関連する話題に目を通していただきたい。						



## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	総合領域Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	現在鍼灸院にて施術業務に従事中	担当	佐藤 尚子	授業方法	実技	単位数	1
到達目標	1 鍼灸治療におけるリスク管理ができる。 2 道具や部位によらず安全で的確な刺鍼ができる。 3 患者に対する細やかな配慮が配れる。			評価方法			
授業概要	鍼灸治療で起こりやすいリスクとその対処法を十分に理解したうえで、顔に対する刺鍼法を学習する。			期末試験 60% レポート 40% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	鍼灸医療安全ガイドライン	使用器材	PC、液晶プロジェクター、ディスプレイ、ステンレス鍼				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	リスク管理	鍼灸治療において報告されている有害事象について学ぶ。					
第2週	鍼灸治療の禁忌	鍼灸治療での禁忌と危険部位 灸治療での禁忌と危険部位を学ぶ。					
第3週	リスクの対処と予防	臨床で起きやすい事例 日々の臨床でのリスク管理について学ぶ。					
第4週	美容鍼について	本授業の目的と目標について学び、 特殊な刺鍼法を習得する。					
第5週	カウンセリング	問診や同意書について インフォームド・コンセントについて学ぶ。					
第6週	評価	主訴の聴取や客観的な評価法について学ぶ。					
第7週	フェイスラインのたるみ	原因と刺鍼について学ぶ。					
第8週	ほうれい線	原因と刺鍼について学ぶ。					
第9週	眼周囲のシワ	原因と刺鍼について学ぶ。					
第10週	眼周囲のたるみ	原因と刺鍼について学ぶ。					
第11週	頸肩部の血流改善	原因と刺鍼について学ぶ。					
第12週	タイプ別 治療穴	体質や主訴による基本穴と刺鍼について学ぶ。					
第13週	美容鍼の施術 ①	カウンセリング～刺鍼を習得する。					
第14週	美容鍼の施術 ②	カウンセリング～刺鍼を習得する。					
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	1 常にリスクに留意しながら、丁寧に施術を行うこと。 2 医療従事者としての態度や言葉遣いを身に付けるように努めること。						

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	総合領域Ⅲ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験	現在鍼灸院にて施術業務に従事中	担当	佐藤 尚子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 女性の身体と環境について理解を深める。 2 女性特有な症状を理解し、病態把握ができる。 3 女性の疾患に対して適切な鍼灸治療が行える。			評価方法			
授業概要	鍼灸治療の来院患者に多く見られる女性特有の症状について、現代医学的と東洋医学的の両面から理解を深め、適切な治療法を学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	東洋医学概論、生理学東洋医学概論	使用器材	液晶プロジェクター、PC				
週	授 業 項 目 ・ 内 容			実 施 結 果			
第1週	女性の一生	女性一生において起きる、身体の変化と環境の変化について学ぶ。					
第2週	女性の身体 ①	現代医学的な月経と妊娠、婦人科疾患について学ぶ。					
第3週	女性の身体 ②	東洋医学的な月経と妊娠 婦人病の基本的な病因、病機、治療原則について学ぶ。					
第4週	診察の要点	産婦人科での診察と検査 東洋医学的な診察と検査について学ぶ。					
第5週	月経の異常	現代医学での定義と考え方 東洋医学での病機と治療原則について学ぶ。					
第6週	月経の困難症	現代医学での定義と考え方 東洋医学での病機と治療原則について学ぶ。					
第7週	月経の前症候群	現代医学での定義と考え方 東洋医学での病機と治療原則について学ぶ。					
第8週	不妊症	現代医学での定義と考え方 東洋医学での病機と治療原則について学ぶ。					
第9週	妊娠悪阻	現代医学での定義と考え方 東洋医学での病機と治療原則について学ぶ。					
第10週	浮腫	現代医学での定義と考え方 東洋医学での病機と治療原則について学ぶ。					
第11週	骨盤位	現代医学での定義と考え方 東洋医学での病機と治療原則について学ぶ。					
第12週	産前、産後のケア	現代医学での定義と考え方 東洋医学での病機と治療原則について学ぶ。					
第13週	浮汁分泌不足	現代医学での定義と考え方 東洋医学での病機と治療原則について学ぶ。					
第14週	更年期障害	現代医学での定義と考え方 東洋医学での病機と治療原則について学ぶ。					
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1 女性の身体について基礎となる、生理学や東洋医学概論を予習しておくこと。 2 患者さんの状況や苦しみを理解しようとする姿勢で授業に臨むこと。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	保健科学Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	佐藤 敦子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 細胞の構造と組織の種類、人体の発生について説明することができる。 2. 各器官系(循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系)の構造について説明することができる。 3. 人体の方向用語を説明することができる。			評価方法			
授業概要	診察及び治療に必要な保健科学的知識、特に人体を構成する細胞・組織・器官系の構造と機能を学び、鍼灸師としての基礎学力をつけることを目的とする。			期末試験 50% 小テスト 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、配布資料	使用器材	提示装置				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	<ul style="list-style-type: none"> <li>細胞の構造(細胞膜、細胞小器官、核:遺伝情報)と機能の概要を学ぶ。</li> <li>細胞分裂の意義を学ぶ。</li> <li>人体の方向用語を学ぶ。</li> </ul>						
第2週	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織(上皮、結合組織、骨、軟骨、血液、筋)の概要を学ぶ。</li> </ul>						
第3週	<ul style="list-style-type: none"> <li>血管系(体循環・肺循環、血管の構造、動脈・静脈・毛細血管)を学ぶ。</li> <li>心臓の構造と機能を学ぶ。</li> </ul>						
第4週	<ul style="list-style-type: none"> <li>動脈系・静脈系(奇静脈、門脈)の構造を学ぶ。</li> <li>胎児循環を学ぶ。</li> <li>リンパ系(リンパ管、リンパ系の器官:リンパ節・脾臓・胸腺)の構造を学ぶ。</li> </ul>						
第5週	<ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸器系(鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、声帯、気管・気管支、肺)の構造を学ぶ。</li> </ul>						
第6週	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化器系(口腔・舌、歯、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜)の構造を学ぶ。</li> </ul>						
第7週	第1週～第6週で学んだことの小試験と解説						
第8週	<ul style="list-style-type: none"> <li>泌尿器系(腎臓、尿路)の構造と機能を学ぶ。</li> <li>生殖器系(男性生殖器:精巣、外生殖器、精液)の構造や組成を学ぶ。</li> </ul>						
第9週	<ul style="list-style-type: none"> <li>生殖器系(女性生殖器:卵巣、子宮、外生殖器)の構造を学ぶ。</li> <li>受精の過程、肺葉の形成、内胚葉性器官、中胚葉性器官、外胚葉性器官を学ぶ。</li> </ul>						
第10週	<ul style="list-style-type: none"> <li>内分泌系(下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎皮質、副腎皮質)の構造とホルモンを学ぶ。</li> </ul>						
第11週	<ul style="list-style-type: none"> <li>感覚器系[視覚器、眼球の付属器(眼瞼、涙器、眼筋)、平衡覚器、聴覚器、味覚器、嗅覚器]の構造を学ぶ。</li> </ul>						
第12週	<ul style="list-style-type: none"> <li>神経系の構成(神経の区分、神経細胞、神経膠細胞)を学ぶ。</li> <li>中枢神経系[中枢神経系の発生、脊髄、延髄・橋、中脳、小脳、間脳、大脳(大脳皮質機能局在、大脳基底核、大脳白質)、脳室系、髄膜、脳の血管:大脳動脈輪]を学ぶ。</li> </ul>						
第13週	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝導路[反射路、下行性伝導路(錐体路、錐体外路)、上行性伝導路(体性感覚伝導路:外側脊髄視床路・長後索路・脊髄小脳路)]を学ぶ。</li> <li>末梢神経(脳神経、脊髄神経、自律神経:交感神経、副交感神経)を学ぶ。</li> </ul>						
第14週	第8週～第13週で学んだことの小試験と解説						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1 講義に臨む前に、シラバスの該当箇所を教科書で予習し、質問箇所を書き出しておくこと。 2 復習は当日の授業の重要事項をその日の内に振り返り、理解できていないときは次週の授業のとき質問すること。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	保健科学Ⅲ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	佐藤 敦子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 骨の種類、骨の連結、関節の特徴の概要を述べるができる。 2 体幹、上肢、下肢の骨の構成を説明できる。 3 筋の種類を述べるができる。 4 筋の作用を説明することができる。 5 体幹、上肢、下肢における筋の作用を実演できる。			評価方法 期末試験 50% 小テスト 50%			
授業概要	診察及び治療に必要な保健科学的知識、特に体幹・上肢・下肢の骨、関節、靭帯、筋系の構造と機能について学び、鍼灸師としての基礎学力を付けることを目的とする。			(100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、配付資料	使用器材	提示装置、人体模型				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	・総論(骨の種類、骨の連結、関節の種類)を学ぶ。						
第2週	・体幹の骨(椎骨、胸骨、胸郭)の構成を学ぶ。 ・頭蓋の骨(脳頭蓋、顔面頭蓋、内頭蓋底、外頭蓋底)の構成を学ぶ。						
第3週	・上肢骨(上肢帯の骨、上腕骨、前腕骨、手の骨)の構成を学ぶ。						
第4週	・下肢骨(下肢帯の骨、大腿骨、下脚骨、足の骨)の構成を学ぶ。						
第5週	・顎関節と靭帯、椎骨の関節と靭帯を学ぶ。						
第6週	・上肢・下肢の関節と靭帯を学ぶ。						
第7週	・第1週～第6週で学んだ骨の小試験						
第8週	・総論[筋(骨格筋)の起始・停止、筋の形態、筋の作用の種類、筋の作用による分類、筋の補助装置:筋膜・筋支帯・滑液包・種子骨・筋滑車、筋の神経:運動単位]を学ぶ。						
第9週	・上肢に筋の付着部位(起始・停止)を学ぶ。 ・上肢の筋の作用と運動を学ぶ。 ・腋窩を構成する筋を学ぶ。						
第10週	・下肢に筋の付着部位(起始・停止)を学ぶ。 ・下肢の筋の作用と運動を学ぶ。						
第11週	・脊髄神経後枝、脳神経、頸神経叢、胸神経に支配される筋を学ぶ。						
第12週	・腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢に支配される筋を学ぶ。						
第13週	・顔面・腹部の筋、横隔膜、呼吸運動、回旋筋円板、鼠径管を学ぶ						
第14週	・第8週～第13週で学んだ筋の小試験						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1 講義に臨む前に、シラバスの該当箇所を教科書で予習し、質問箇所を書き出しておくこと。 2 復習は当日の授業の重要事項をその日の内に振り返り、理解できていないときは次週の授業のとき質問すること。						

令和2年度

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	病態生理学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	佐藤 敦子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 正常な状態のヒトの身体構造の概要を述べることができる。 2 正常な構造が破綻したとき体の中でどんな変化が起き、どんな症状が起きるかを説明できる。 3 調節機能が破綻するメカニズムを説明することができる。			評価方法			
授業概要	病態生理学を学ぶことにより、人体の正常な構造が異常をきたすと身体の調節機能が破綻し色々な症状が現れる事を知り、鍼灸師としての基礎学力をつける。			期末試験 50% 小テスト 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学総論(10章)・配布資料	使用器材	提示装置				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	・脳・神経の異常①(頭痛、顔面痛、歯痛)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第2週	・脳・神経の異常②(運動麻痺、不眠、意識障害)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第3週	・感覚器の異常(めまい、耳鳴り、難聴、嘔声、眼振)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第4週	・呼吸器系の異常[咳・痰、息切れ(呼吸困難)、胸水、血痰・喀血]の発症のメカニズムを学ぶ。						
第5週	・心臓系の異常(動悸、胸痛、貧血、ショック)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第6週	・消化器系の異常[腹痛、便秘、下痢、食欲不振、肥満、やせ(るいそう)、嚥下障害、悪心・嘔吐、吐血・下血、口渇]の発症のメカニズムを学ぶ。						
第7週	第1週～第6週で学んだことの小試験と解説						
第8週	・生殖器系の異常(月経異常、不正性器出血)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第9週	・泌尿器系の異常(排尿障害、欠尿・無尿、多尿)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第10週	・体液調節の異常(浮腫)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第11週	・筋・骨格系の異常(肩こり、頸肩腕痛、上肢痛、腰下肢痛、関節痛)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第12週	・皮膚・体温調節の異常(発熱、のぼせ、冷え、発疹)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第13週	・脈管系の異常(出血傾向)の発症のメカニズムを学ぶ。 ・免疫その他の異常(易感染性、疲労・倦怠)の発症のメカニズムを学ぶ。						
第14週	第8週～第13週で学んだことの小試験と解説						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	1 講義に臨む前に、シラバスの該当箇所を教科書で予習し、質問箇所を書き出しておくこと。 2 復習は当日の授業の重要事項をその日の内に振り返り、理解できていないときは次週の授業のとき質問すること。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	総合領域Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	陳 勇	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	東洋医学の”四診”という診察法の重要な部分(脈診)を習得し、鍼灸の臨床に応用する。			評価方法			
授業概要	1 脈診の診察法 2 脈診の病理状態、診断法、治療法 3 脈診のカルテ記入法			期末試験 100%			
教科書等	脈診論	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容				実 施 結 果		
第1週	新臨床中医学の脈診の紹介						
第2週	第一章 概論（脈診の診察法）						
第3週	第二章 総論（弦脈、緊脈、滑脈、動脈）						
第4週	第3節 異常な脈 1 六祖脈						
第5週	脈診のカルテ記入法						
第6週	2 浮脈類（脈の診察、カルテの記入）						
第7週	沈脈類（脈の診察、カルテの記入）						
第8週	数遅脈類（脈の診察、カルテの記入）						
第9週	大・細・長・短脈類（脈の診察、カルテの記入）						
第10週	リズム異常脈類（脈の診察、カルテの記入）						
第11週	第三章 脈の分析						
第12週	第四章 臨床症例						
第13週	第五章 脈の診断法						
第14週	復習						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	毎朝自分の脈を診察し、体の疲れなど状態を調べ、東洋医学の考え方を理解する。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	総合領域Ⅱ	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	陳 勇	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人体（経絡）の動きの診察法・診断法を習得し、臨床治療時に応用できるようになる			評価方法			
授業概要	1 動き負荷テストの診察法 2 動き負荷テストの診断法、治療法 3 動き負荷テストのカルテ記入法			期末試験 100%			
教科書等	新臨床中医学入所	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容				実 施 結 果		
第1週	動き負荷テストの紹介						
第2週	動き負荷テスト 肩関節（前面・後面）						
第3週	肩関節（側面）						
第4週	肘関節（前・後・側）						
第5週	手首関節（前・後・側）						
第6週	動き負荷テストの記入法						
第7週	上半身動き負荷テストのまとめ						
第8週	動き負荷テスト 腰関節（前面・後面）						
第9週	腰関節（側面）						
第10週	股関節（前・後・側）						
第11週	膝関節（前・後・側）						
第12週	足首関節（前・後・側）						
第13週	頸関節（前・後・側）						
第14週	復習						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	家族や友人に動き負荷テストの負荷判限を調べ、体の状態を確認する。						

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	生体観察	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担 当	陳 勇	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	東洋医学の”四診”という診察法の重要な部分(舌診)を習得し、鍼灸の臨床に応用する。			評価方法			
授業概要	1 舌診の見方 2 異常な舌診の病理状態、治療法 3 舌診のカルテ記入法			期末試験 100%			
教科書等	舌診論	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	新臨床中医学の舌診の紹介						
第2週	第一章 概論 舌診の見方						
第3週	第二章 総論 1 正常な舌診						
第4週	舌診のカルテ記入方法						
第5週	2 異常な舌診 ① 舌質の色						
第6週	② 舌質の形						
第7週	③ 舌苔の色						
第8週	④ 舌苔の形						
第9週	第三章 舌診の分析（舌診診察、カルテの記入）						
第10週	舌診の分析（舌診診察、カルテの記入）						
第11週	舌診の分析（舌診診察、カルテの記入）						
第12週	第四章 舌診の臨床症例						
第13週	第五章 舌診の診断法						
第14週	復習						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	毎日寝る前と朝起きた時自分の舌を観察して、伝統医学の考え方を理解する。						



令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	臨床実習①	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	太田和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	鍼灸臨床の現場で用いられる灸実技を修得する。			評価方法			
授業概要	様々な疾患に対する灸法や特殊灸法を身につけるための実習を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はりきゆう理論 はりきゆう実技(基礎編)	使用器材	白板、ベッド、鍼灸治療道具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	ペーパーに施灸(半米粒大) 深谷灸法の概説および竹筒を用いた灸法の練習						
第2週	ペーパーに施灸(半米粒大) 深谷灸法の対象 感冒						
第3週	ペーパーに施灸(半米粒大) 深谷灸法の対象 咳嗽						
第4週	ペーパーに施灸(半米粒大) 深谷灸法の対象 消化器疾患						
第5週	ペーパーに施灸(半米粒大) 深谷灸法の対象 運動器						
第6週	ペーパーに施灸(半米粒大) 深谷灸法の対象 神経系						
第7週	ペーパーに施灸(半米粒大) 深谷灸法の対象 目・耳・口・婦人科系						
第8週	ペーパーに施灸(半米粒大) 経筋を用いた灸療法						
第9週	ペーパーに施灸(半米粒大) 特殊灸法 棒灸						
第10週	ペーパーに施灸(半米粒大) 特殊灸法 温筒灸						
第11週	ペーパーに施灸(半米粒大) 特殊灸法 塩灸・みそ灸						
第12週	ペーパーに施灸(半米粒大) 特殊灸法 生姜灸・にんにく灸						
第13週	ペーパーに施灸(半米粒大) 特殊灸法 押灸・びわの葉灸						
第14週	ペーパーに施灸(半米粒大) 特殊灸法 和紙灸・くるみ灸						
第15週	期末試験、解説						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	臨床実習②	授業時期	前期	授業時数	30
実務経歴	佐藤：鍼灸院で施術業務に従事中	担当	佐藤尚子・陳勇	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床前実技試験で学んだ事をもとにして、より臨床の現場に近い状況を想定し様々な治療技術の習得を目標とする。			評価方法			
授業概要	様々な疾患についての病態把握や治療方法を講義し、その実習を行う。附属鍼灸院で実際の患者に対する問診などの実習も行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	プリント、経絡経穴概論、東洋医学臨床論(はりきゆう編)	使用器材	ベッド、プロジェクター、ディスプレイ鍼、もぐさ				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	臨床実習①(問診から鍼灸施術まで)、附属鍼灸治療院における研修						
第2週	臨床実習②(問診から鍼灸施術まで)、附属鍼灸治療院における研修						
第3週	臨床実習③(問診から鍼灸施術まで)、附属鍼灸治療院における研修						
第4週	臨床実習④(問診から鍼灸施術まで)、附属鍼灸治療院における研修						
第5週	臨床実習⑤(問診から鍼灸施術まで)、附属鍼灸治療院における研修						
第6週	臨床実習⑥(問診から鍼灸施術まで)、附属鍼灸治療院における研修						
第7週	臨床実習⑦(問診から鍼灸施術まで)、附属鍼灸治療院における研修						
第8週	臨床実習⑧(問診から鍼灸施術まで)、附属鍼灸治療院における研修						
第9週	臨床実習⑨(問診から鍼灸施術まで)、附属鍼灸治療院における研修						
第10週	臨床実習⑩(問診から鍼灸施術まで)、附属鍼灸治療院における研修						
第11週	臨床実習⑪(問診から鍼灸施術まで)、附属鍼灸治療院における研修						
第12週	臨床実習⑫(問診から鍼灸施術まで)、附属鍼灸治療院における研修						
第13週	臨床実習⑬(問診から鍼灸施術まで)、附属鍼灸治療院における研修						
第14週	臨床実習⑭(問診から鍼灸施術まで)、附属鍼灸治療院における研修						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	臨床に際し必要な知識(解剖学や経穴など)の再復習をすること。刺鍼練習台などで治療技術の研鑽に励むこと。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	臨床実習①	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験		担当	星野英二	授業方法	実技	単位数	1
到達目標	臨床の現場に必要な整形外科分野の徒手検査を主に復習し、実際に徒手検査が行えるように実習を通して学習する。			評価方法			
授業概要	配布プリントを作成、配布し講義を進めていく。临床上必要な知識については別途資料を配布し知識を深めるようにする。			期末実技試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論、臨床医学総論など	使用器材	液晶プロジェクター、配布プリント、打鍵槌、角度計				
週	授 業 項 目 ・ 内 容			実 施 結 果			
第1週	整形外科科学的徒手検査法①(座学)						
第2週	整形外科科学的徒手検査法①(実技練習)						
第3週	整形外科科学的徒手検査法②(座学)						
第4週	整形外科科学的徒手検査法②(実技練習)						
第5週	整形外科科学的徒手検査法③(座学)						
第6週	整形外科科学的徒手検査法③(実技練習)						
第7週	整形外科科学的徒手検査法④(座学)						
第8週	整形外科科学的徒手検査法④(実技練習)						
第9週	整形外科科学的徒手検査法⑤(座学)						
第10週	整形外科科学的徒手検査法⑤(実技練習)						
第11週	整形外科科学的徒手検査法⑥(座学)						
第12週	整形外科科学的徒手検査法⑥(実技練習)						
第13週	整形外科科学的徒手検査法⑦(座学)						
第14週	整形外科科学的徒手検査法⑦(実技練習)						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	講義内容をよく復習し、各徒手検査方法についての知識を深めること。						

令和2年度

### 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	臨床実習②	授業時期	中期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院で施術業務に従事中	担当	佐藤尚子	授業方法	実技	単位数	1
到達目標	臨床の現場で有用な婦人科疾患についての知識や鍼灸治療方法を学ぶ。座学で婦人科疾患について学習した後、ペアを作り模擬患者と施術者に分かれて鍼灸施術方法を修得する。			評価方法			
授業概要	配布プリントを作成、配布し講義を進めていく。臨床上必要な知識については別途資料を配布し知識を深めるようにする。			期末実技試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論、臨床医学総論など	使用器材	液晶プロジェクター、配布プリント、打鍵槌、角度計				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	婦人科疾患 ① 座学						
第2週	婦人科疾患 ① 実技						
第3週	婦人科疾患 ② 座学						
第4週	婦人科疾患 ② 実技						
第5週	婦人科疾患 ③ 座学						
第6週	婦人科疾患 ③ 実技						
第7週	婦人科疾患 ④ 座学						
第8週	婦人科疾患 ④ 実技						
第9週	婦人科疾患 ⑤ 座学						
第10週	婦人科疾患 ⑤ 実技						
第11週	婦人科疾患 ⑥ 座学						
第12週	婦人科疾患 ⑥ 実技						
第13週	婦人科疾患 ⑦ 座学						
第14週	婦人科疾患 ⑦ 実技						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	講義内容をよく復習し、各徒手検査方法についての知識を深めること。						

令和2年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	臨床実習①	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	星野英二	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	中期で修得した徒手検査方法を用いて、疾患に対する鍼灸治療法について実習形式で学び診察から治療まで一連の流れを修得できるようにする。			評価方法			
授業概要	模擬症例を用いてペアを作り、1週毎に患者役と施術者役を交替しながら疾患の特定、鍼灸治療方針の決定、治療方針に基づく鍼灸実技までを行う。同時に附属治療院にて研修も行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論、臨床医学総論など	使用器材	ディスプレイ鍼、もぐさ、打鍵槌、角度計、メジャー、音叉				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	模擬症例を用いた鍼灸施術①-1						
第2週	模擬症例を用いた鍼灸施術①-2						
第3週	模擬症例を用いた鍼灸施術②-1						
第4週	模擬症例を用いた鍼灸施術②-2						
第5週	模擬症例を用いた鍼灸施術③-1						
第6週	模擬症例を用いた鍼灸施術③-2						
第7週	模擬症例を用いた鍼灸施術④-1						
第8週	模擬症例を用いた鍼灸施術④-2						
第9週	模擬症例を用いた鍼灸施術⑤-1						
第10週	模擬症例を用いた鍼灸施術⑤-2						
第11週	模擬症例を用いた鍼灸施術⑥-1						
第12週	模擬症例を用いた鍼灸施術⑥-2						
第13週	模擬症例を用いた鍼灸施術⑦-1						
第14週	模擬症例を用いた鍼灸施術⑦-2						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						

## 授業計画書

学科・学年	鍼灸学科（昼間部） 3年	科目名	臨床実習②	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院で施術業務に従事中	担当	佐藤尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	中期までに修得した治療技術を用いて、婦人科疾患や美容鍼灸分野に対する鍼灸治療法について実習形式で学び診察から治療まで一連の流れを修得できるようにする。			評価方法			
授業概要	模擬症例を用いてペアを作り、1週毎に患者役と施術者役を交替しながら疾患の特定、鍼灸治療方針の決定、治療方針に基づく鍼灸実技までを行う。同時に附属治療院にて研修も行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	臨床医学各論、臨床医学総論など	使用器材	ディスプレイ、もぐさ、打鍵槌、角度計、メジャー、音叉				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術①-1						
第2週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術①-2						
第3週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術②-1						
第4週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術②-2						
第5週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術③-1						
第6週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術③-2						
第7週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術④-1						
第8週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術④-2						
第9週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術⑤-1						
第10週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術⑤-2						
第11週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術⑥-1						
第12週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術⑥-2						
第13週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術⑦-1						
第14週	模擬症例(婦人科疾患を中心に)を用いた鍼灸施術⑦-2						
第15週	期末試験、解説						
授業外学習指示等	講義内容をよく復習し、各疾患についての知識を深めること。						